MACHI 界隅の探求

京都はもちろん京都である。世界、日本、京都。
その京都の中にも様々な街(マチ)がある。
紫竹、錦、祇園、大手筋、七条、西賀茂、島原……
行くさきざきでその街風が感じられれば

銀閣寺はセピア色の街である。

学生運動が盛んであった頃、京都大学を拠点として京の町を騒がした銀閣寺周辺。今は学生たちの憩いの場として静かに息づいている。京都大学の哲学者、西田幾太郎氏が好んで歩いたためにこの名が付いた“哲学の道”は銀閣寺橋から疎水に沿って約1.8km、紅葉で名高い若王寺神社まで、ゆるいカーブを描いて続く。路面には市電の敷石が敷きつめられ、左右には桜並木が枝を連ねる。この辺りを歩いていると、およそ高尚な文学とは縁遠い人種も少しシリアスになってインテリを気どりたくなるから不思議だ。京大出身の大島渚監督、浅田彰氏、ローザルクセンブルグのドント君も、西部講堂、進々堂、CBGBに足を運んだり、銀閣寺界隈を気の趣くままに散歩したり、時の流れに身をまかせ、自由気ままな学生生活を楽しんだのだろう。流行り廃りの激しい繁華街を少し離れると、そこは流行りなど必要のない、しかし確かな存在感を持つ不思議な空気を漂わせている。

MISE

夏の夜にトドメをさす。

カフェバーという言葉も今ではほとんど死語になってしまったが、実際カフェバーに十分属する店は沈滞することなく今も確実に増加している。しかし一頃のような、ただちょっと気どって静かにグラスを傾ける風のスタイルだけでは、もうもの足りなくなってきている。店のカラーが重要視されるのだ。

観葉植物に熱帯魚、壁にはライトグリーンの蛍光塗料でペイントされた絵と、メタリックなディテールが、トロピカルとアールデコをイメージさせるカフェ・ド・コパが西賀茂に登場した。『コパ』というから『コパカバーナ』のサンバ調かなと連想するが、そこはちょっとはずしてボサノバのリズムが、カードテーブルに座っているカップル客のムードを軽やかにしている。お酒の方はバーボンやスコッチよりも、いかしたジョッキでビールを飲む方が似合う。マスターのやっさんがお昼のスタッフを募集していた。べっぴんな女性客も多いこのバー、一足早く夏の夜を体験させてくれる。

CAFÉ de COPA　北区大宮田尻町
シャンクレール春日BF